

3. その他

I 京都大学の教養・共通教育について

京都大学の教育体系は、教養・共通教育と専門教育（※）により構成されています。専門教育はそれぞれの学部で実施されます。これに対して教養・共通教育は全学部の学生を対象に国際高等教育院が実施しています。

本学の教育として教養・共通教育を行っている目的は、第一に自分の選んだ専門分野以外の学問に触れ、多様な問題関心や学問的方法論を理解することであり、第二に専門教育の課程で必要とされる基礎的な学力や知識・技能を習得することが挙げられます。また、国際化した社会において学問研究に従事し、あるいは、社会の様々な分野で活躍するために、第三の目的として、しっかりとした国際的視点とともに、十分なコミュニケーション能力を身につけることが挙げられます。特に英語学習については、国際高等教育院附属国際学術言語教育センター（i-ARRC）の教員がサポートしています。

どの学部に入学した場合も、教養・共通教育として「全学共通科目」の履修が求められます。専門教育の前に、もしくは専門教育と並行しながら、まず「全学共通科目」を学ぶこととなります。

全学共通科目の詳細については、国際高等教育院 Web サイト (<https://www.z.kyoto-u.ac.jp/zenkyo>) をご覧ください。

なお、国際高等教育院では、自らの英語能力に関して自覚を促すために、学部新入生を対象として、英語能力試験（TOEFL ITP）を実施します。外国語として英語を選択した新入生は、1 回生の間に 2 回、TOEFL ITP 試験を受験することとなります。2 回目の試験の成績は、1 回生後期に配当される科目「英語ライティングーリスニング B」の成績評価の一部としても利用します。

また、国際高等教育院では、さまざまな科目でコンピュータの活用を求めていることや、Web を用いたオンラインシステムの利用が手続き等で必要なことから、入学者に対して、学習用ノートパソコンの保有を推奨します。それに際して、大学での学習に適したノートパソコンの仕様も示しています。

※ 専門教育とは、各分野の専門的知識や学問の方法を身につけることを目的として各学部が実施するものであり、その教育課程は、各学部の理念と教育方針に基づき決定されています。